

令和2年 12 月 15 日
第1回研究会資料

少子化における児童生徒の
教育環境の充実に向けた取組

飯田市教育委員会 学校教育課

私たちの住む飯田市の小中学校は、
地域のもつ自然や文化、人と人との繋がりなど、
その地域が人々を育む力、すなわち地育力を大切にしながら、
子どもたちがふるさとに誇りと愛着をもてるように
それぞれの歴史を刻んできました。

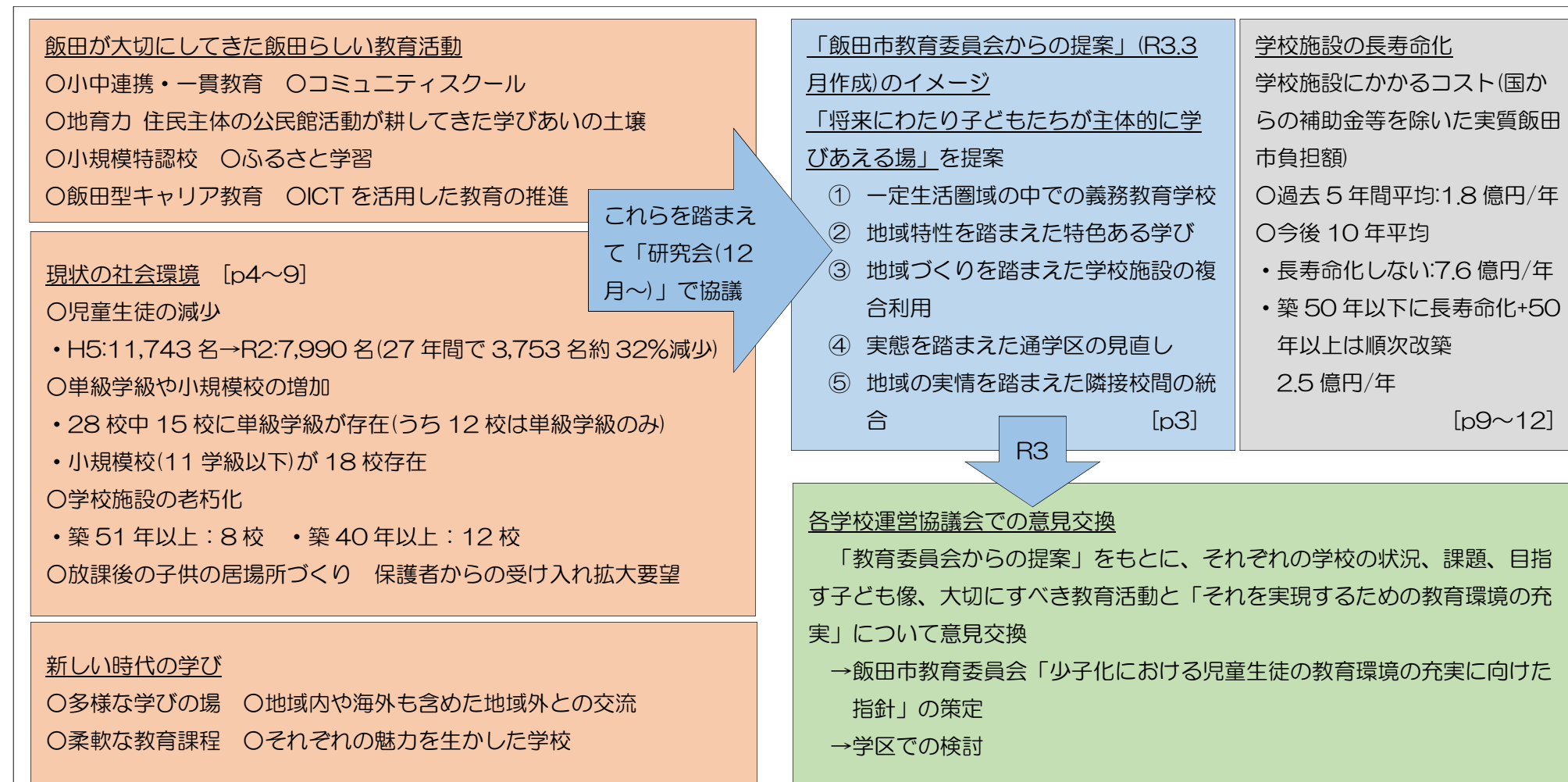
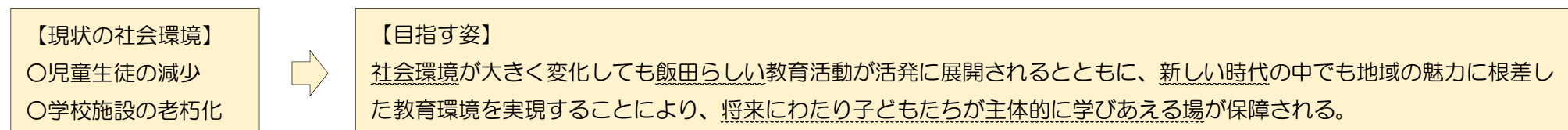
しかし、少子化のなかで児童生徒が少なくなっています。
学校の校舎も古くなってきて、建て替えを考えなければいけない校舎もあります。

社会環境が大きく変化しても
地域に根ざした飯田らしい教育環境が展開され
将来にわたり子どもたちが主体的に学びあう場が保障されるためには
どんな教育環境が大切なのか、
そして、どんな学校がよいのか。

子どもたちの未来のために、みんなで考えていきましょう。

少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組

児童生徒の教育環境の充実を、様々な可能性を示しつつ学校・保護者・地域などと教育委員会とで一緒に考えていきたい。



「将来にわたり子どもたちが主体的に学びあえる場」の提案

①一定生活圏域の中での義務教育学校

- ・小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う学校
- ・柔軟な教育課程編成が可能 5-4 制、4-3-2 制のなどの選択
- ・施設一体型、施設隣接型

○期待できる効果

- ・教育主体、教育活動、学校マテリアルの一貫性の確保
- ・組織的、継続的な教育活動の徹底による教育効果の向上
- ・子どもたちの社会性の育成機能の向上(異学年交流、部活動など)
- ・いわゆる「中1ギャップ」の緩和をはじめとする生徒指導上の諸問題の減少

○県内例：・根羽村立義務教育学校根羽学園

- ・大町市立美麻小中学校
- ・信濃町立信濃小中学校

②地域特性を踏まえた特色ある学び

- ・小規模校ならではの魅力を生かした学校づくり
- ・特色に共感する他の地域の児童生徒の受け入れ

○期待できる効果

- ・学校の存続と教育環境の維持
- ・きめ細やかな指導
- ・ICT を活用した複数学校間(市外、県外の学校とも)の合同事業
- ・学校と地域の強い絆

○市内例：上村小学校 平成 29 年 12 月小規模特認校に指定(上村コミュニティスクールからの要請を受ける形)

③地域づくりを踏まえた学校施設の複合利用

- ・学校施設と地域の児童クラブ、図書館、公民館、保育所などを複合的に設置する

- ・学びの場である学校を中心に地域コミュニティの拠点を形成する
- ・新設する校舎に包含する方式、空き教室を有効活用する方式

○期待できる効果

- ・児童生徒や地域住民に多様な学習環境を創出する
- ・児童生徒を含めた地域住民同士の交流の機会を創出する
- ・規模は縮小するが、地域に必要な施設を地域に残すことができる
- ・公共施設の集約により利便性が向上する

○県外例：・千代田区立昌平小学校 幼稚園、保育所、児童館、図書館

- ・京都市立京都御池中学校 保育所、老人デイサービスセンター、在宅介護支援センター、行政機関、店舗(民間)
- ・南砺市立利賀小中学校 放課後児童クラブ、公民館

④実態を踏まえた通学区の見直し [p13]

- ・隣接した学校で児童生徒数に違いがある場合、同規模程度になるよう通学区を見直す

- ・地域の思い、空き教室の状況などの勘案が必要

○期待できる効果

- ・小規模校の存続が可能となる

⑤地域の実情を踏まえた隣接校間の統合 [p13]

- ・隣接する小学校間、もしくは中学校間の統合

○期待できる効果

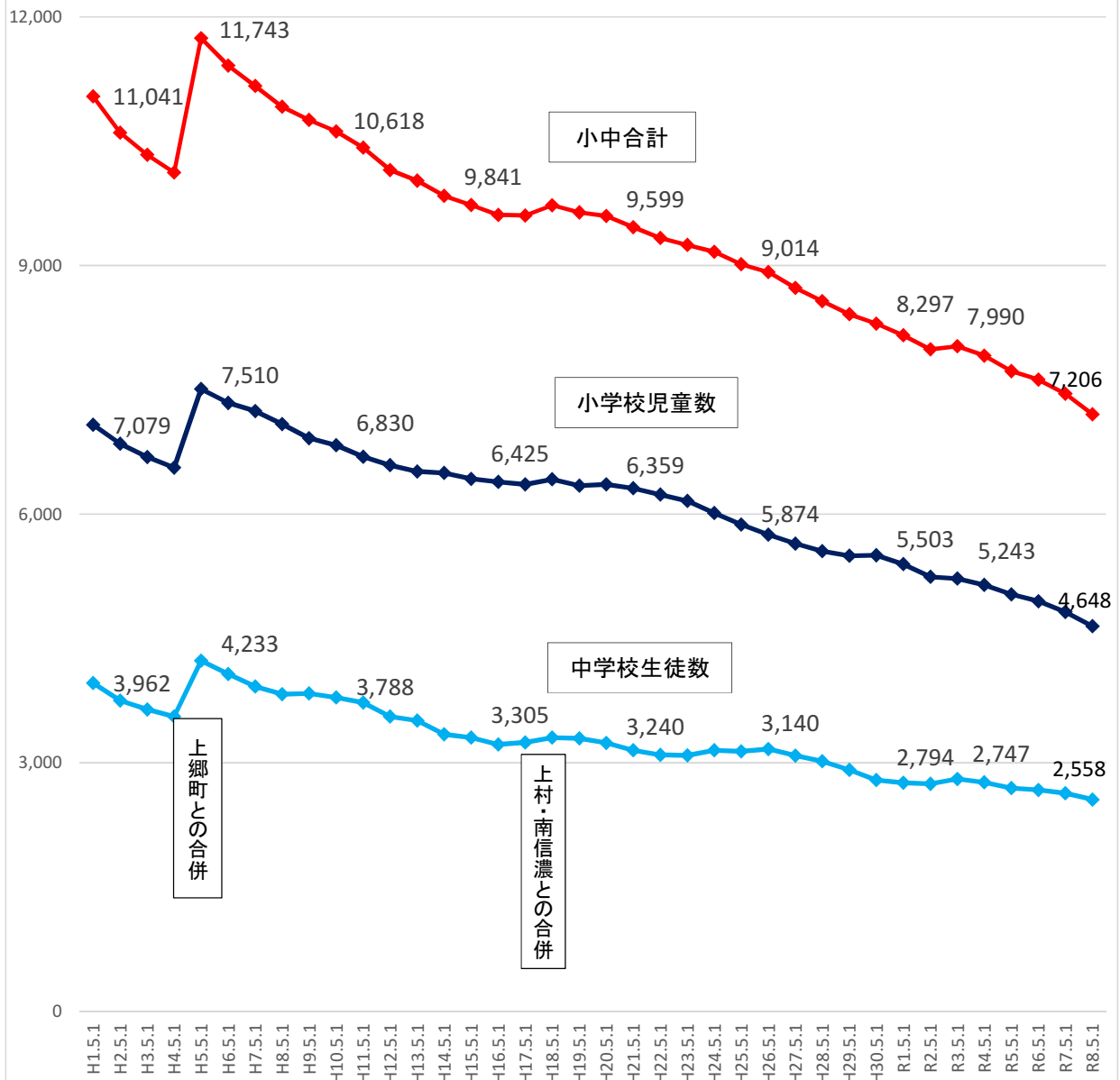
- ・単級学級や小規模校が解消できる

飯田市小中学校 児童生徒数の推移

年 月 日	小学校児童数 (人)	増 減 (人)	中学校生徒数 (人)	増 減 (人)	小中合計 (人)	H5合計を100と した場合の指数	増 減 (人)
H1.5.1	7,079	△ 239	3,962	△ 181	11,041	94.0	△ 420
H2.5.1	6,850	△ 229	3,753	△ 209	10,603	90.3	△ 438
H3.5.1	6,691	△ 159	3,646	△ 107	10,337	88.0	△ 266
H4.5.1	6,561	△ 130	3,559	△ 87	10,120	86.2	△ 217
H5.5.1	7,510	949	4,233	674	11,743	100.0	1,623
H6.5.1	7,342	△ 168	4,069	△ 164	11,411	97.2	△ 332
H7.5.1	7,244	△ 98	3,921	△ 148	11,165	95.1	△ 246
H8.5.1	7,088	△ 156	3,828	△ 93	10,916	93.0	△ 249
H9.5.1	6,918	△ 170	3,837	9	10,755	91.6	△ 161
H10.5.1	6,830	△ 88	3,788	△ 49	10,618	90.4	△ 137
H11.5.1	6,693	△ 137	3,728	△ 60	10,421	88.7	△ 197
H12.5.1	6,593	△ 100	3,559	△ 169	10,152	86.5	△ 269
H13.5.1	6,514	△ 79	3,510	△ 49	10,024	85.4	△ 128
H14.5.1	6,498	△ 16	3,343	△ 167	9,841	83.8	△ 183
H15.5.1	6,425	△ 73	3,305	△ 38	9,730	82.9	△ 111
H16.5.1	6,389	△ 36	3,221	△ 84	9,610	81.8	△ 120
H17.5.1	6,360	△ 29	3,245	24	9,605	81.8	△ 5
H18.5.1	6,421	61	3,305	60	9,726	82.8	121
H19.5.1	6,345	△ 76	3,294	△ 11	9,639	82.1	△ 87
H20.5.1	6,359	14	3,240	△ 54	9,599	81.7	△ 40
H21.5.1	6,313	△ 46	3,151	△ 89	9,464	80.6	△ 135
H22.5.1	6,237	△ 76	3,095	△ 56	9,332	79.5	△ 132
H23.5.1	6,160	△ 77	3,089	△ 6	9,249	78.8	△ 83
H24.5.1	6,014	△ 146	3,152	63	9,166	78.1	△ 83
H25.5.1	5,874	△ 140	3,140	△ 12	9,014	76.8	△ 152
H26.5.1	5,751	△ 123	3,168	28	8,919	76.0	△ 95
H27.5.1	5,644	△ 107	3,086	△ 82	8,730	74.3	△ 189
H28.5.1	5,554	△ 90	3,018	△ 68	8,572	73.0	△ 158
H29.5.1	5,499	△ 55	2,914	△ 104	8,413	71.6	△ 159
H30.5.1	5,503	4	2,794	△ 120	8,297	70.7	△ 116
R1.5.1	5,397	△ 106	2,760	△ 34	8,157	69.5	△ 140
R2.5.1	5,243	△ 154	2,747	△ 13	7,990	68.0	△ 167 H5比△3,753
R3.5.1	5,222	△ 21	2,805	58	8,027	68.4	37
R4.5.1	5,147	△ 75	2,765	△ 40	7,912	67.4	△ 115
R5.5.1	5,031	△ 116	2,695	△ 70	7,726	65.8	△ 186
R6.5.1	4,950	△ 81	2,673	△ 22	7,623	64.9	△ 103
R7.5.1	4,822	△ 128	2,632	△ 41	7,454	63.5	△ 169
R8.5.1	4,648	△ 174	2,558	△ 74	7,206	61.4	△ 248

※R3以降は令和元年度末のそれぞれの年代の住基人口から推定

児童生徒数の推移



令和2-8年度 中学校区別児童生徒数の比較

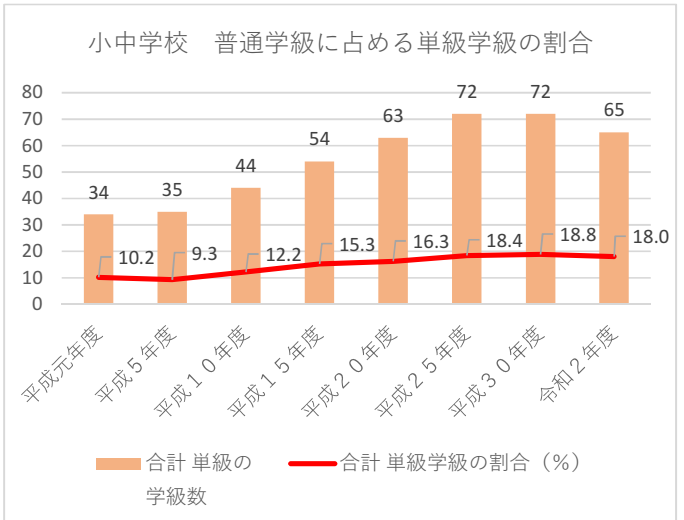
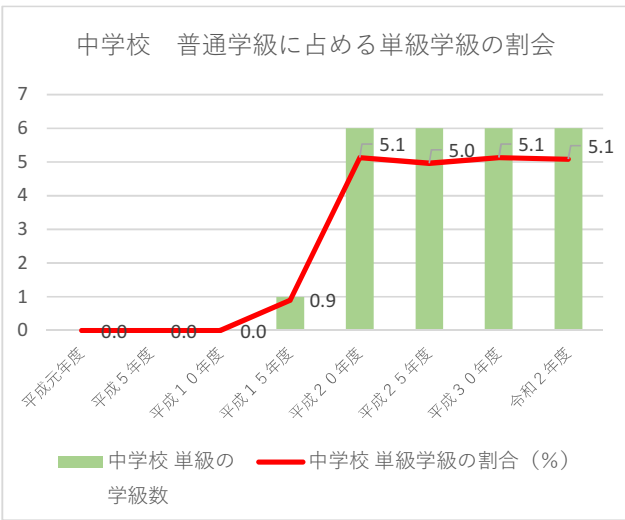
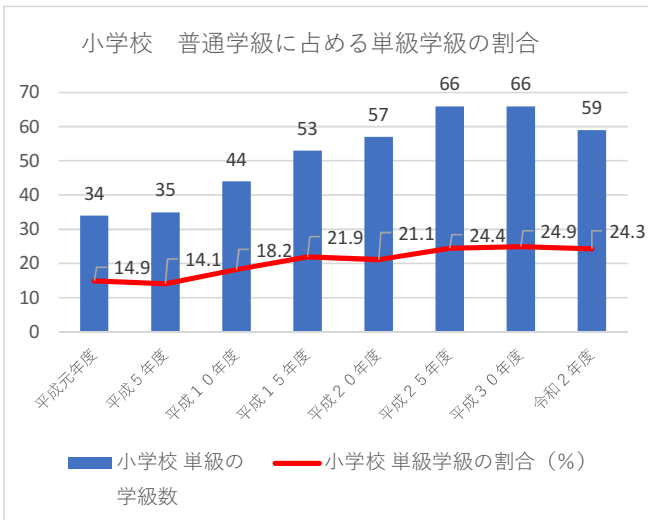
校区名	学校名	令和2年度		令和8年度予想値		増減数	増減率
		児童・生徒数	校区合計	児童・生徒数	校区合計		
飯田東中学校区	飯田東中学校	200	478	142	346	△ 132	72.4
	追手町小学校	139		114			
	浜井場小学校	139		90			
飯田西中学校区	飯田西中学校	229	705	217	667	△ 38	94.6
	丸山小学校	476		450			
緑ヶ丘中学校区	緑ヶ丘中学校	656	1,906	593	1,781	△ 125	93.4
	松尾小学校	749		728			
	下久堅小学校	141		119			
	竜丘小学校	360		341			
竜東中学校区	竜東中学校	63	189	63	152	△ 37	80.4
	上久堅小学校	46		33			
	千代小学校	44		34			
	千栄小学校	36		22			
竜峡中学校区	竜峡中学校	147	437	141	389	△ 48	89.0
	龍江小学校	119		89			
	川路小学校	94		107			
	三穂小学校	77		52			
旭ヶ丘中学校区	旭ヶ丘中学校	590	1,667	545	1,442	△ 225	86.5
	伊賀良小学校	844		715			
	山本小学校	233		182			
鼎中学校区	鼎中学校	360	1,041	343	1,051	10	101.0
	鼎小学校	681		708			
高陵中学校区	高陵中学校	465	1,483	493	1,337	△ 146	90.2
	座光寺小学校	245		194			
	上郷小学校	773		650			
遠山中学校区	遠山中学校	37	84	21	50	△ 34	59.5
	上村小学校 (うち特認生徒数)	19 (9)		14 (9)			
	和田小学校	28		15			
合 計		7,990		7,215		△ 775	90.3

※令和8年度予想値について

- ・令和元年度末のそれぞれの年代の住基人口から推定
- ・丸山小学校卒業生は全員飯田西中学校へ入学するものとする。
- ・上村小学校は住基人口からの推定値にR2の特認生徒数を加算

飯田市小中学校 単級学級数の推移

年度	小学校					中学校					合計				
	学校数	普通学級数	単級の学級数	単級学級の割合 (%)	単級学級を有する学校数	学校数	普通学級数	単級の学級数	単級学級の割合 (%)	単級学級を有する学校数	学校数	普通学級数	単級の学級数	単級学級の割合 (%)	単級学級を有する学校数
平成元年度	16	219	34	14.9	7	7	100	0	0.0	0	23	319	34	10.2	7
平成5年度	17	240	35	14.1	7	8	117	0	0.0	0	25	357	35	9.3	7
平成10年度	17	225	44	18.2	10	8	106	0	0.0	0	25	331	44	12.2	10
平成15年度	17	220	53	21.9	10	8	95	1	0.9	1	25	315	54	15.3	11
平成20年度	19	236	57	21.1	12	9	96	6	5.1	2	28	332	63	16.3	14
平成25年度	19	221	66	24.4	13	9	99	6	5.0	2	28	320	72	18.4	15
平成30年度	19	211	66	24.9	13	9	91	6	5.1	2	28	302	72	18.8	15
令和2年度	19	208	59	24.3	13	9	89	6	5.1	2	28	297	65	18.0	15



学校における子どもの数が減ることの影響

児童・生徒の学び

○学習活動

- 他の生徒の考えに触れる機会が少なくなり、考えの深まりや広まりに限界がある。
- 多くの生徒と競い合う経験が生まれにくく、たくましが育ちにくい。
- 児童生徒一人ひとりに寄り添った学びを実現しやすく、それぞれの個性を伸ばす教育が行える。
- お互いのことを深く知ることができるので、その関係性を生かした深い学びが成立する。

○クラス

- 単級学級ではクラス替えがないので、ひとたび人間関係が崩れると、その修復が困難になる。
- 中学校や高校に進学したとき、人間関係を築くことに苦労することがある。
- 単級学級ではクラス替えがないので、ずっと安心した人間関係の中で学び続けることができる。
- 学校中の児童生徒がお互いのことをよく知っているので、異学年での学びが進みやすい。

○学校行事・部活動

- 運動会や音楽会などの種目数や楽曲の選択肢が少なくなる。
- 部活動やクラブ活動などの選択肢が少なくなる。

[参考] 緑中:運動部 12、文化部 7 旭中:運動部 13、文化部 5 遠山中:運動部 2、文化部 1 竜東中:運動部 2、文化部 2

- 全校で1つのことを作っていくとき、全員が協力してまとまりやすい。

学校運営

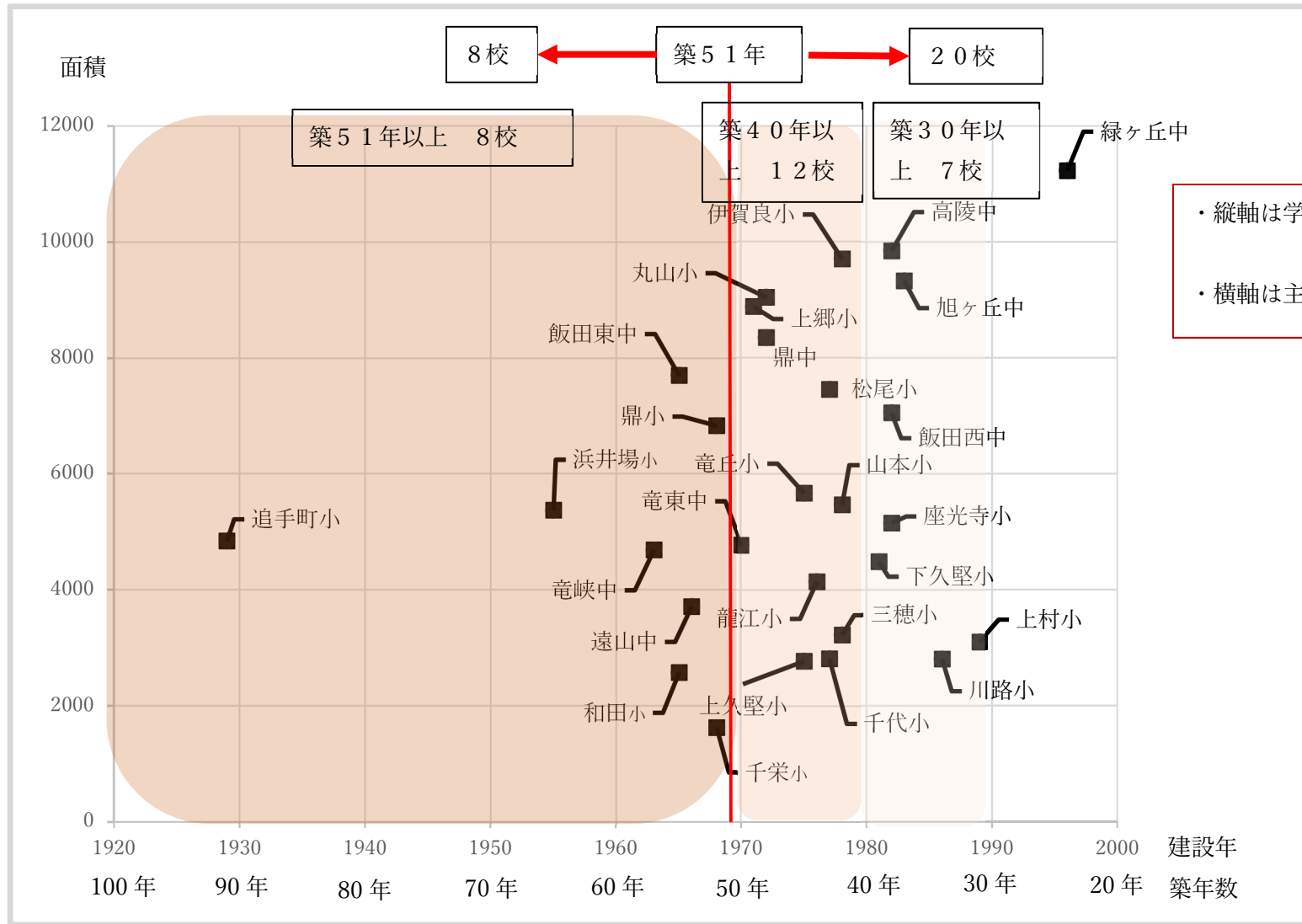
- 学年を一人で経営することになり、相談したり研究を深めたりすることができにくい。
- 校務分掌等一人あたりの負担が大きくなり、授業や子どものこと以外で多忙となる。
- 学級経営等に問題が生じた場合、校内で支援体制を組むことが難しい。
- 教職員が全校の児童生徒を把握しており、全教員が全校の生徒に関わりながら教育活動を行える。
- 授業や行事の際に小回りが利きやすく、様々な活動を取り入れやすい。

保護者や地域

- 保護者も常にPTAや地区の役員をやることになり、多忙感がある。
- 子どもたちの顔と名前が一致していて、あいさつを交わしたり、気軽に声をかけたりすることができる。

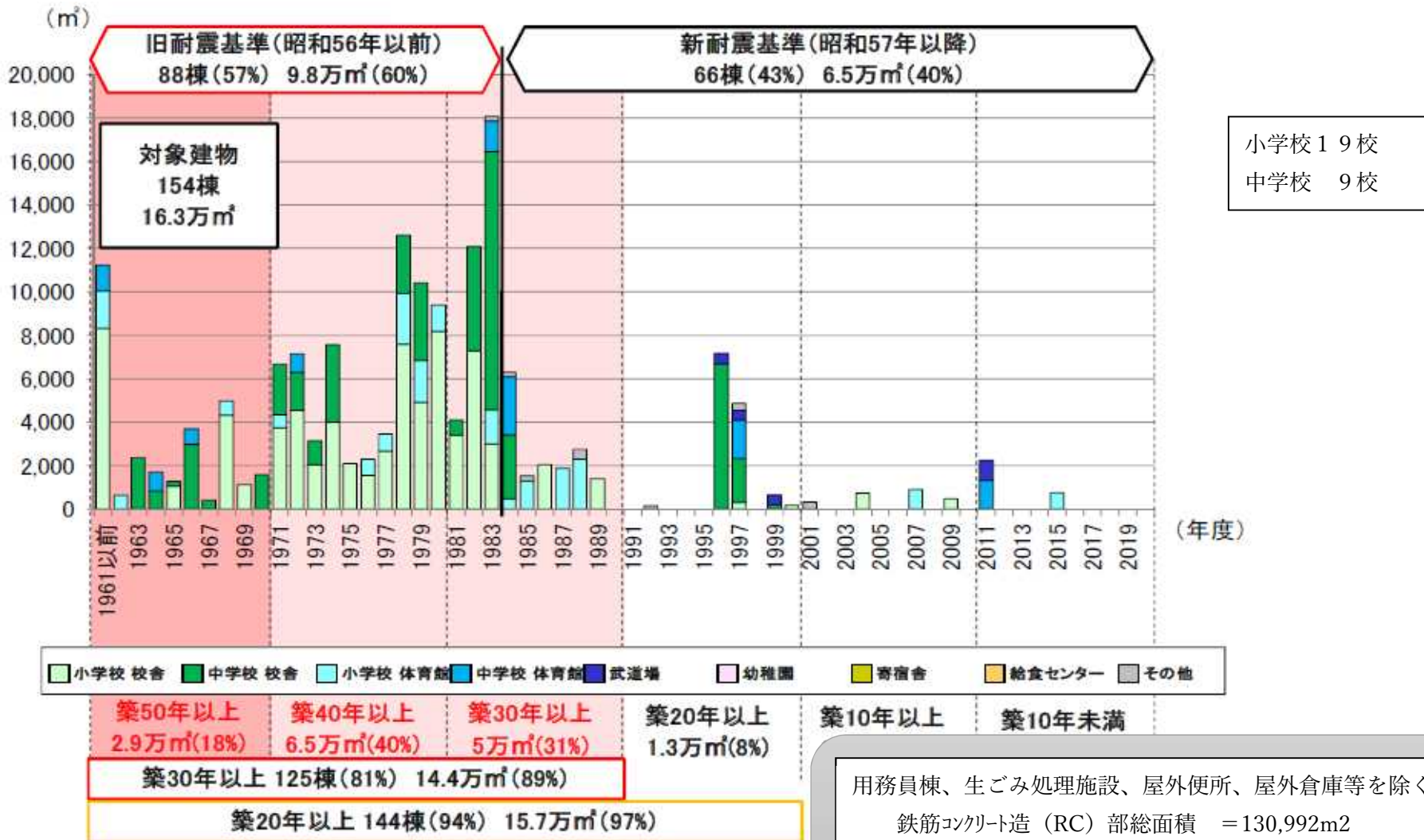
学校別整備状況分布（主たる校舎の建設年）

※文部科学省が示している標準的な改築周期は50年



- ・縦軸は学校毎の総床面積
- ・横軸は主たる校舎の建設年

飯田市学校別整備状況



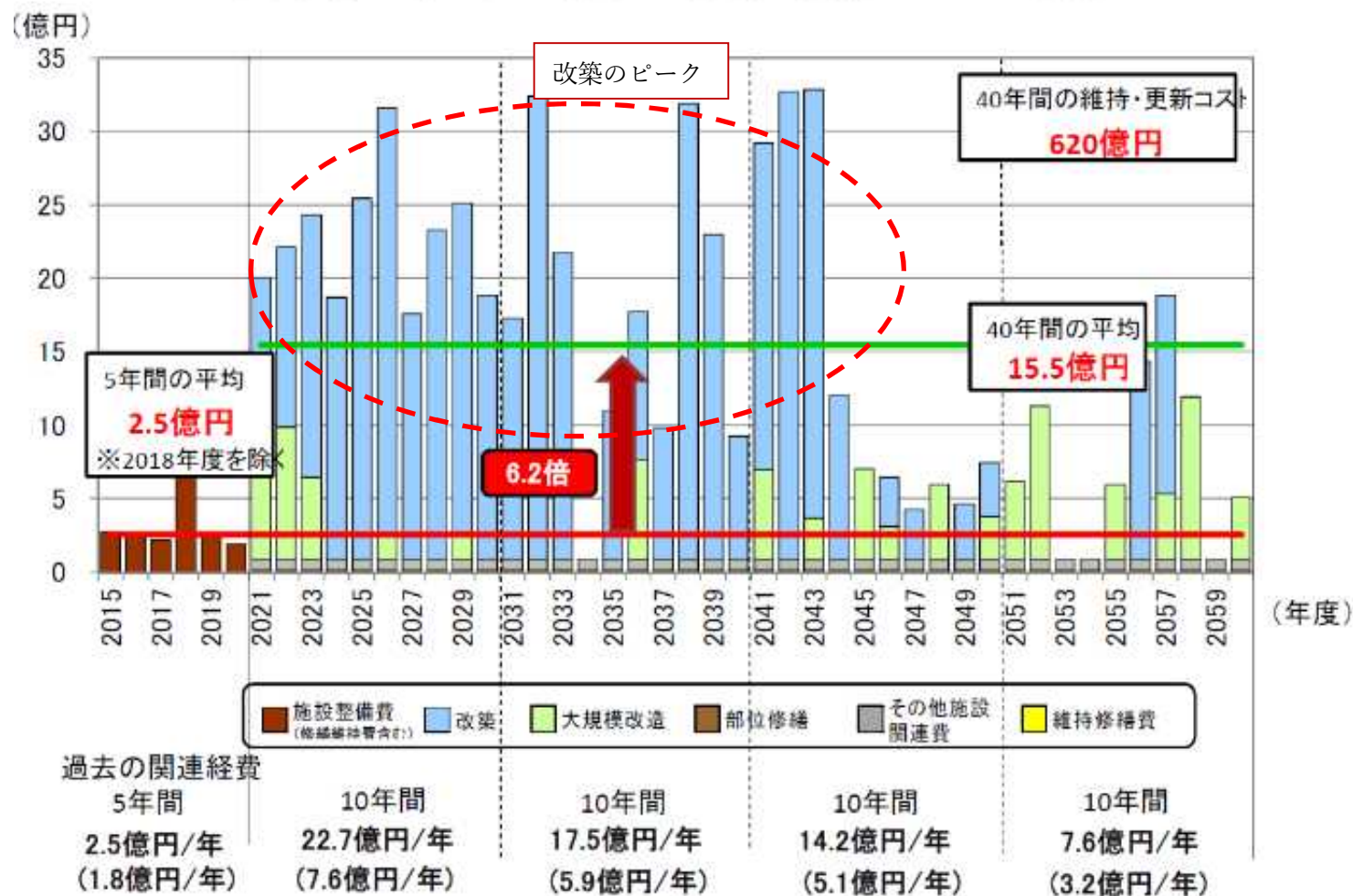
○長寿命化改修を実施しない場合の維持・更新コスト

長寿命化改修を行わず、改築と大規模改修を実施していく場合の今後の推計

試算条件

- ・60年で改築
(更新周期を超えている場合は直近2年で改築)
- ・大規模改修は20年目
- ・改築面積は現在の生徒数から求められる必要面積による推計 (現状の80%)
- ・改築単価
一律30万円/m²で試算
- ・主たる校舎の建設年による改築を想定

長寿命化をしない場合の維持・更新コストの推計



事業費内訳 (40年間)

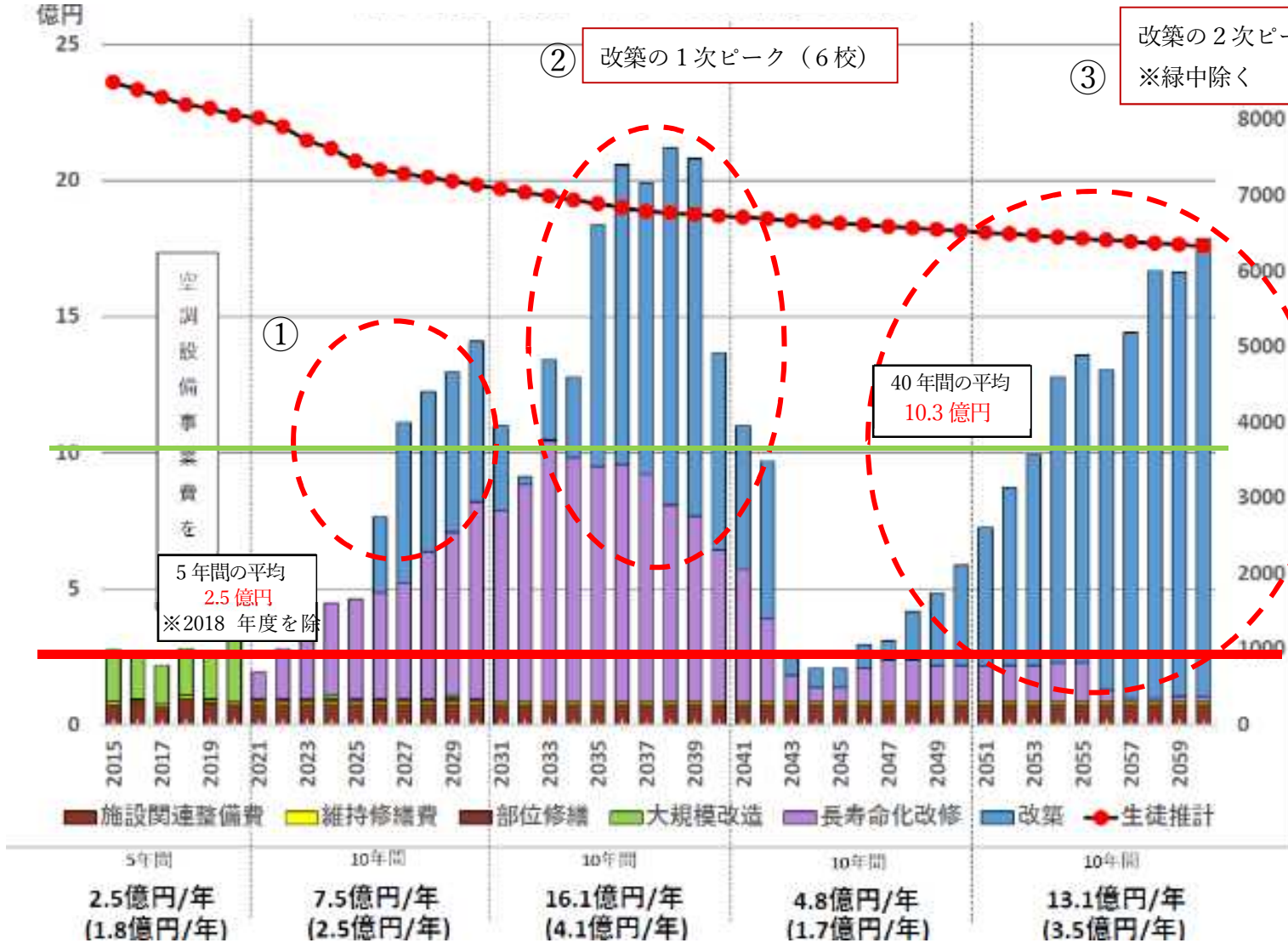
- ・改築費総額
= 488億808万円
- ・大規模改修費総額
= 97億5,330万円
- ・維持修繕費
= 34億円
(8,500万円 x 40年)

- ・現在の校舎における、改築のピークが今後25年間に到来する見込みである。
- ・学校の改築に対する基金の積立が無いなか、今後40年間で年平均で約15.5億円 (一般財源で約5.4億円) もの支出は現実的に不可能である。

○長寿命化改修と計画的改築により平準化した試算結果（一般財源ベースの試算）

長寿命化改修工事とは大規模改修工事と構造躯体の健全性を維持する工事を同時に行い、改修後30年以上の施設利用を見込む。

長寿命化改修+計画的改築の維持・更新コスト（試算）

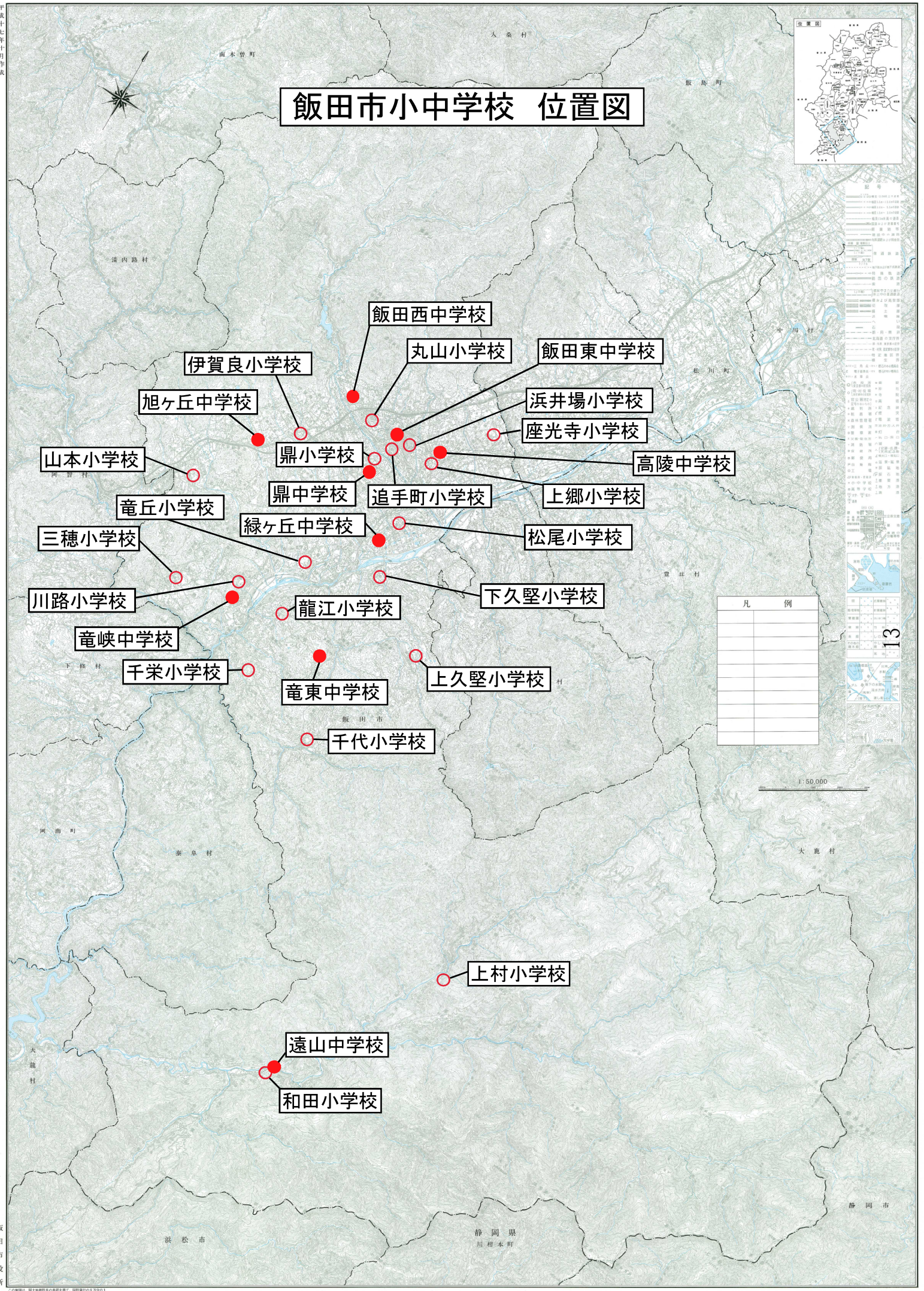


- 試算条件
- 築51年以上の学校（8校）
 - ・過去の実績等から70～75年での改築を目標として維持をする。
 - ・改築面積は現在の生徒数から求められる必要面積による推計(現状の80%)
 - 築51年未満の学校（20校）
 - ・長寿命化改修を50～59年間に実施し、80～89年での改築を目標として維持をする。
 - ・長寿命化改修は現状面積
 - ・改築面積は現在の生徒数から求められる必要面積による推計(現状の80%)

※（ ）内は実質的な市の負担額を示す

飯田市全図

飯田市小中学校 位置図



凡 例	
○	小学校
●	中学校
□	校区
—	市界
—	町界
—	村界
—	河川
—	道路
—	鉄道路線
—	電線
—	等高線
—	標高
—	方位
—	縮尺

平成十七年十月作成

飯田市役所

この図は、国土院の提供したデータに基づき、関係機関との連携により作成されたものであり、地図の正確性を保証するものではありません。また、この図は、平成十七年十月作成です。